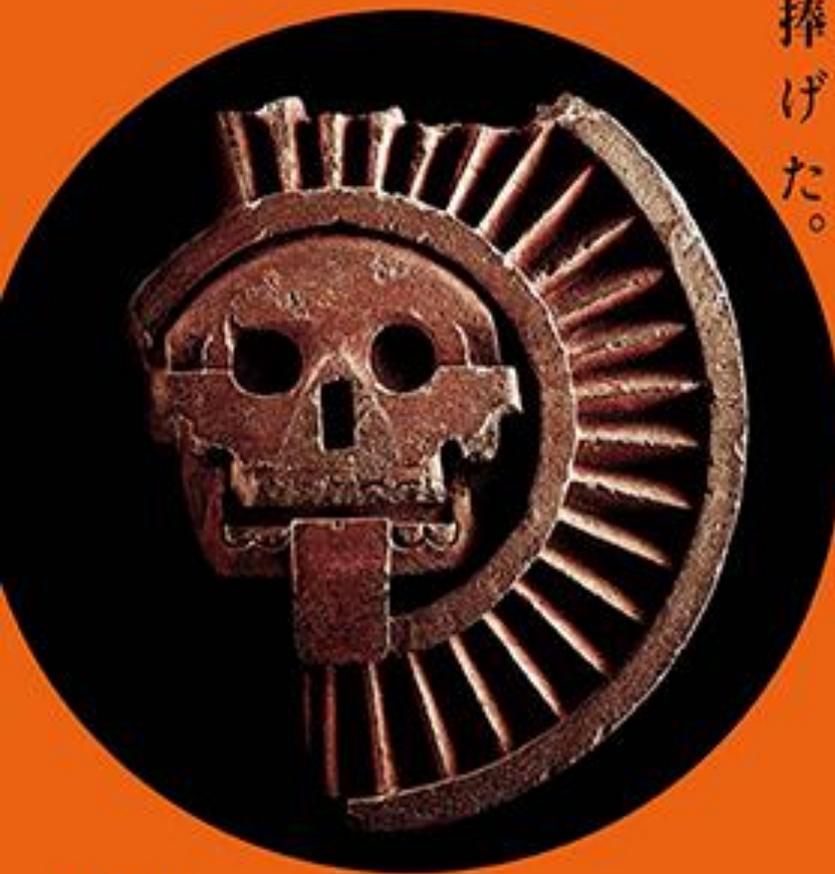


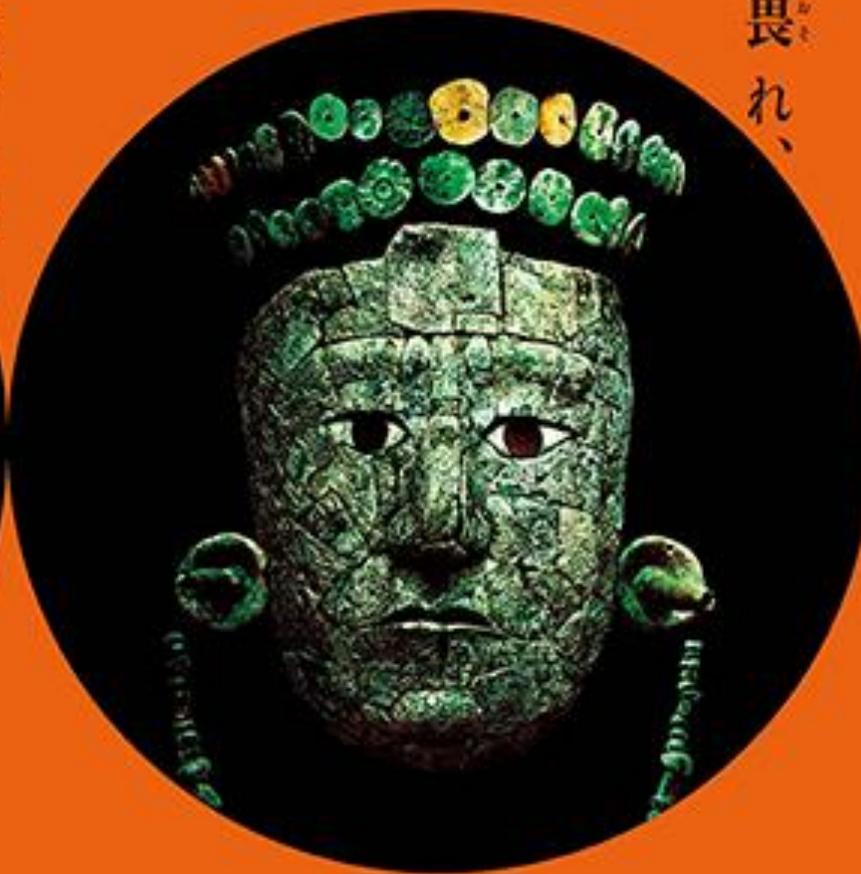
【注 意】

当記者発表資料の掲載画像の無断利用や複製はご遠慮ください。

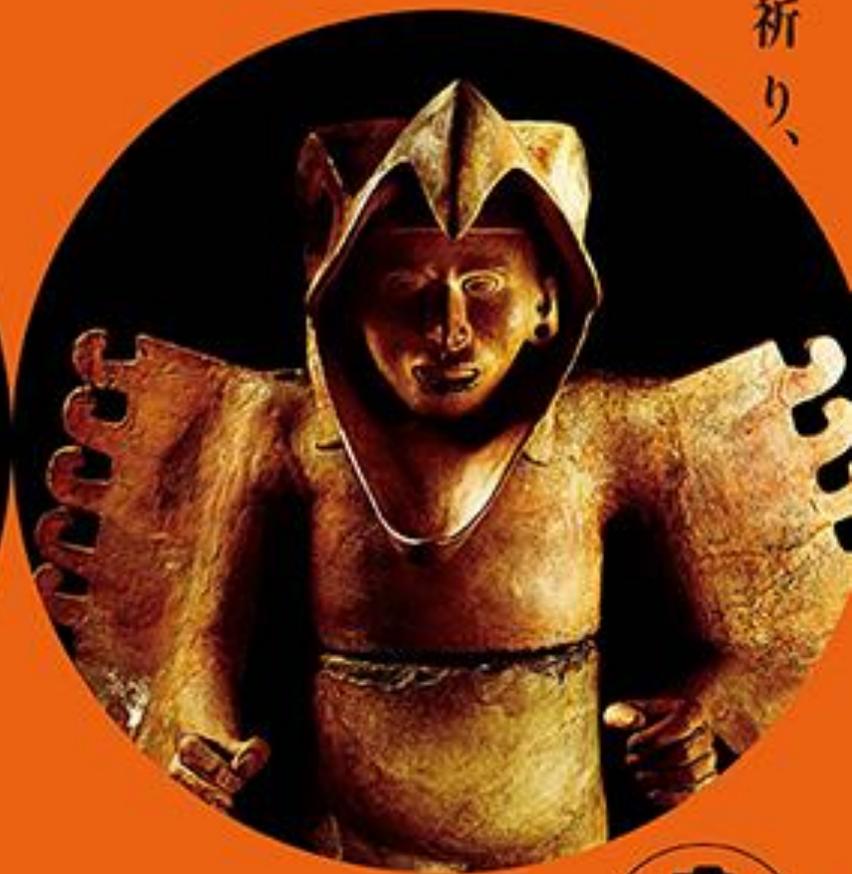
(作品画像の利用を希望される場合は、「広報用画像利用申請書」のご提出をお願いします。)



捧
げ
た。



畏
れ、



祈
り、

特別展

古代メキシコ

マヤ、アステカ、テオティワカン

Special Exhibition
Ancient Mexico
Maya, Aztec, and Teotihuacan

●九州国立博物館Twitter—@kyuhaku_koho ●九州国立博物館HP—<https://www.kyuhaku.jp>
●展覧会公式Twitter—@mexico2023_24 ●展覧会公式サイト—<https://mexico2023.exhibit.jp/>

2023年10月3日(火) → 12月10日(日)

 九州国立博物館
[太宰府天満宮横] 福岡県太宰府市石坂4-7-2

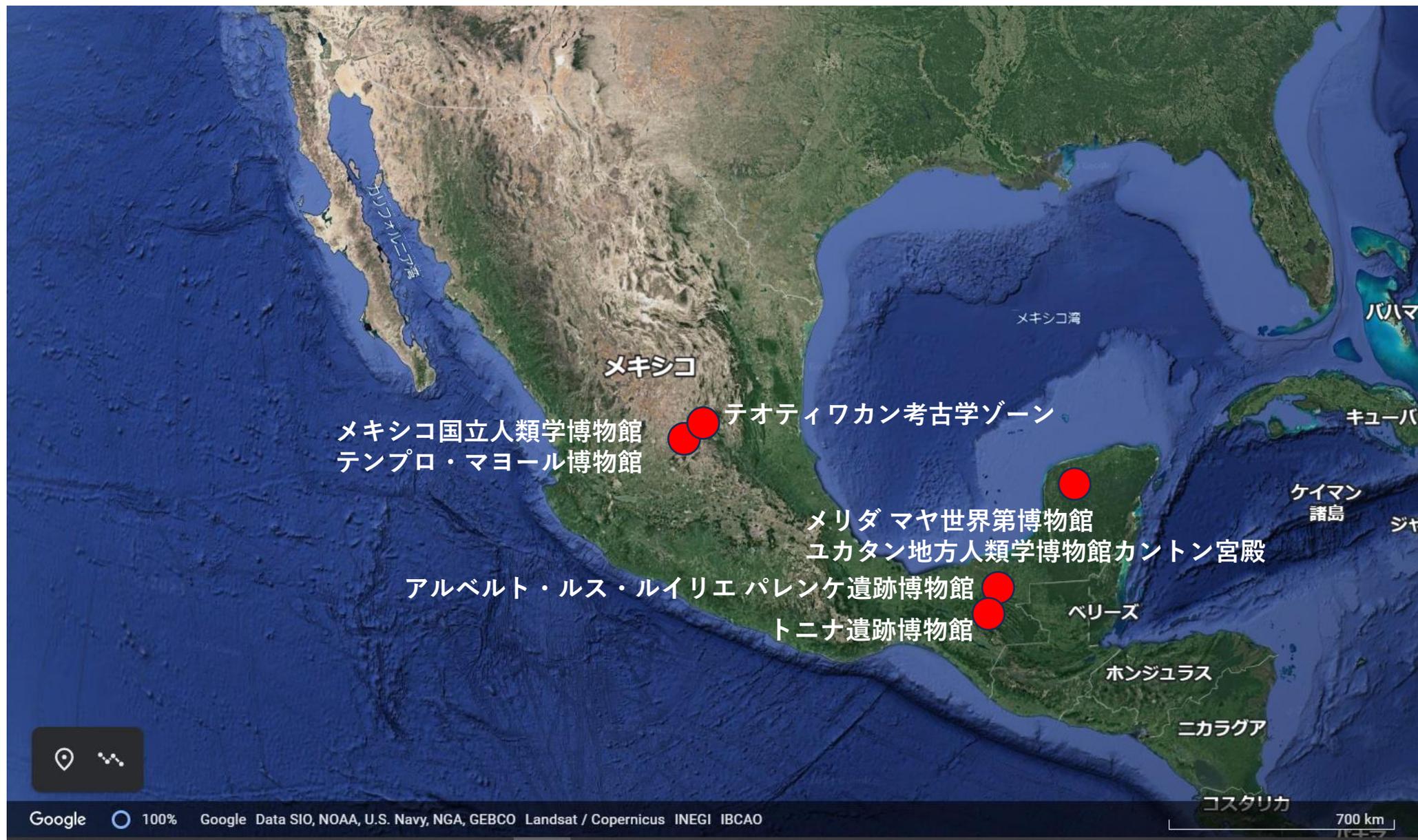


OK

会場内作品
撮影OK

本展の見どころ ①

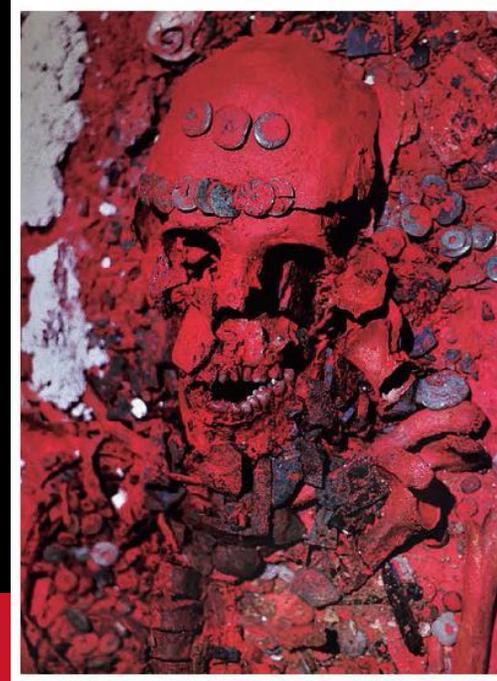
★古代メキシコの至宝
約140件が集結！



本展の見どころ ②

★マヤの「赤の女王」^{レイナ・ロハ} 奇跡の初来日！

赤の女王 出土時の状況



99~110 赤の女王副葬品



本展の見どころ ③

★世界遺産の魅力を
体感できる展示空間



テオティワカン 羽毛の蛇ピラミッド



(彫刻部分拡大)



41 シパクトリ神の頭飾り石彫



40 羽毛の蛇神石彫

メキシコって？

メキシコ

(正式名称:メキシコ合衆国
Estados Unidos
Mexicanos)

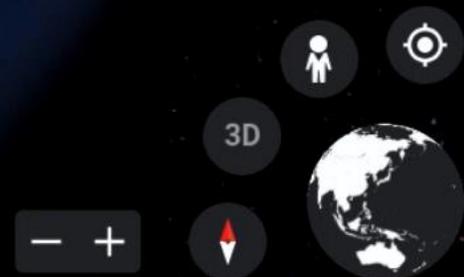
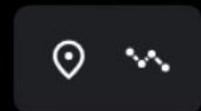


位置:北米大陸南部

面積:1,972,550km²
(日本の約5倍)

人口:約1億290万人

成立:1820年、スペインより
(独立承認)



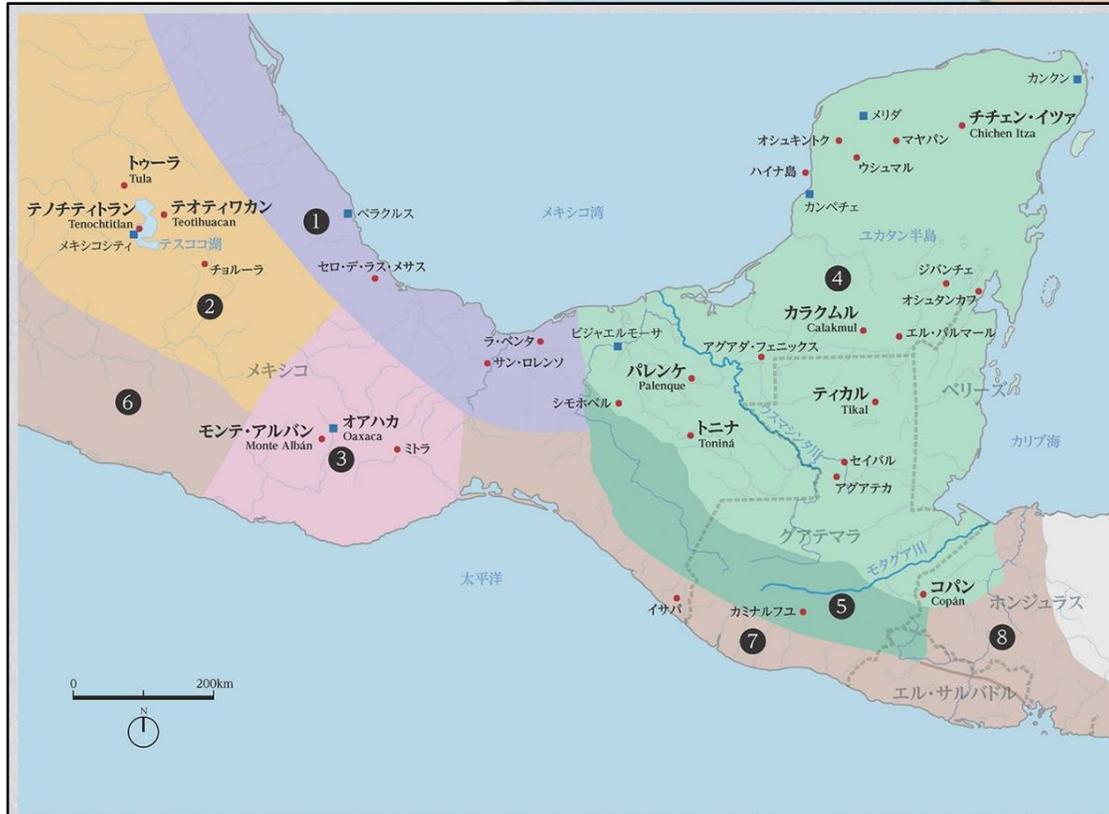
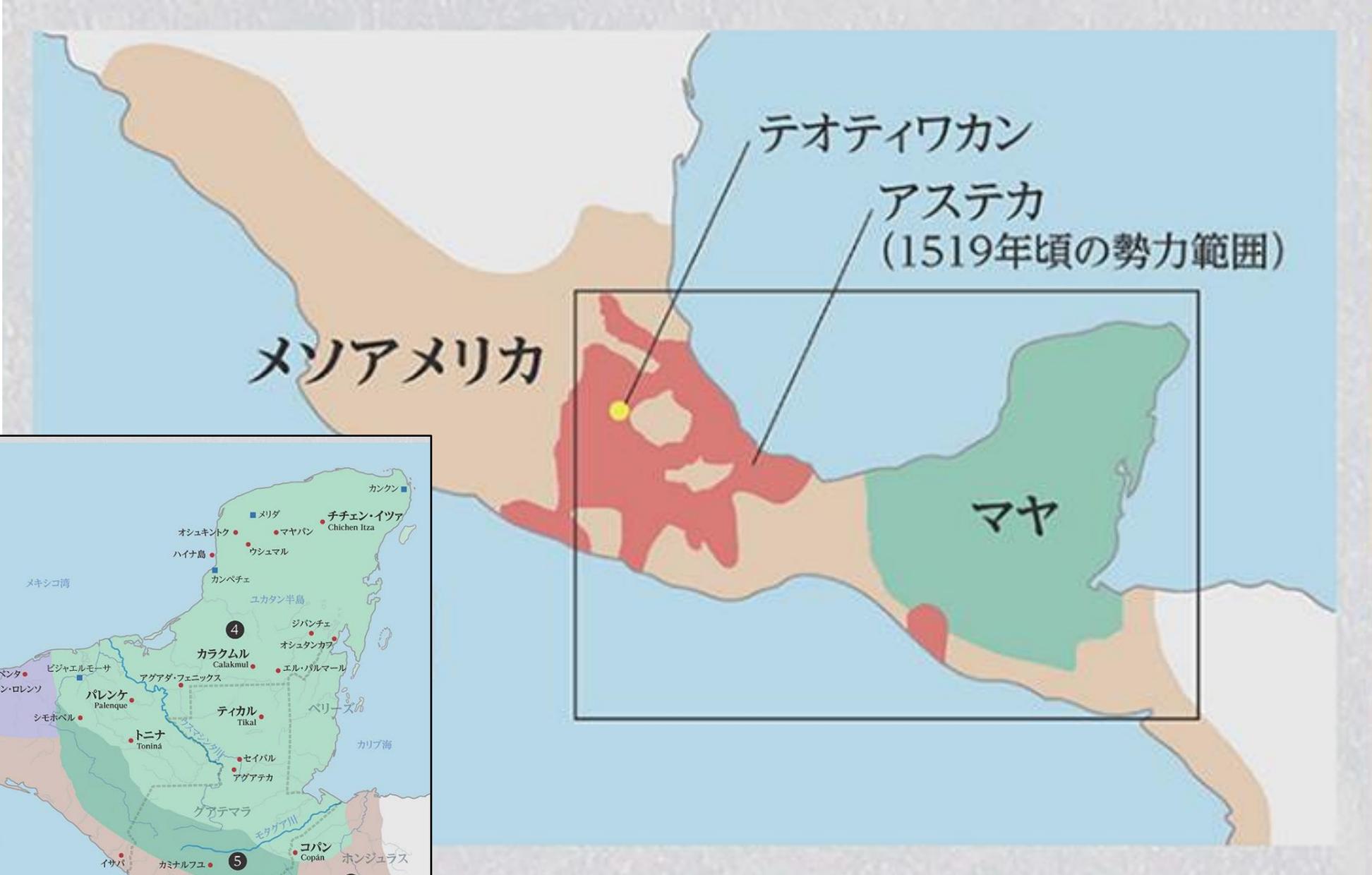
メキシコの地形と気候



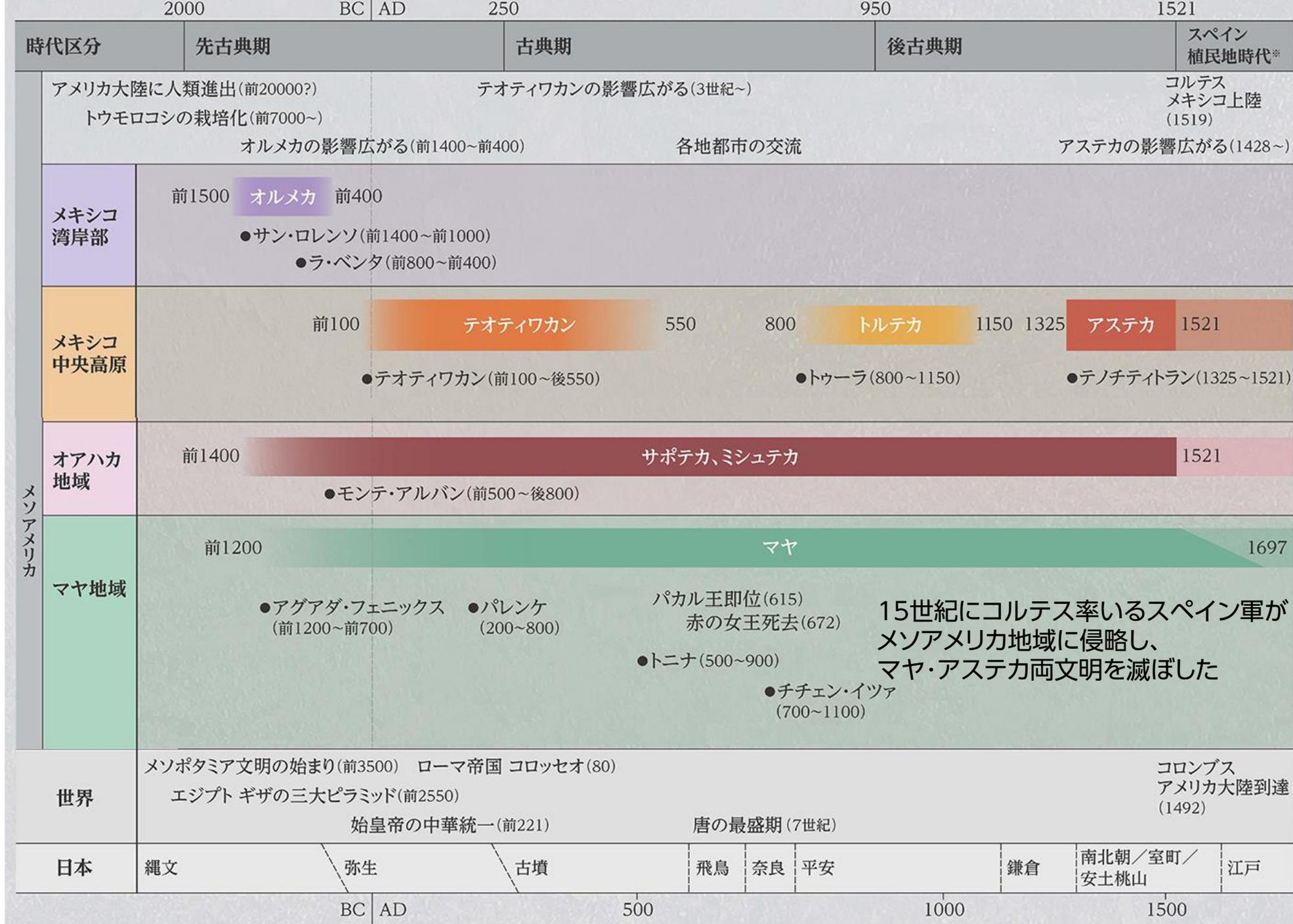
- ・緯度的には亜熱帯～熱帯に該当し、雨季と乾季が明瞭
→海岸沿いやユカタン半島など低地部は熱帯雨林気候
メキシコ中央高原は少雨でサバンナ・ステップ・砂漠気候
- ・北部は褶曲運動(しゅうきょくうんどう)により山脈と高原が形成、
- ◎ 南部はユカタン半島にカルスト地形が発達

メキシコ中央高原に
紀元前1世紀に現れたのが
テオティワカン文明

テオティワカン文明が
6世紀後半にほろんだあと
トルテカ文明を挟み
14世紀にアステカ文明が勃興



ユカタン半島を中心とした地域
現在のメキシコ東部から
グアテマラ・エルサルバドル・ホンジュラス・ベリーズにかけて
マヤ文明は広がっていた



もっとも古いオルメカ文明はその後のメソアメリカ文明の母体となった「母なる文明」

中央高原では次々と文明が勃興した

マヤ文明は初期にはテオティワカン文明と末期にはアステカ文明と並行し互いに影響を与えあった

第1章 古代メキシコへのいざない

「母なる文明」オルメカ文明の
宗教観をあらわすとされる造形
「クライング・ベイビー」



1 オルメカ様式の石偶

いたずらもののクモザルは
神話にもしばしば登場する

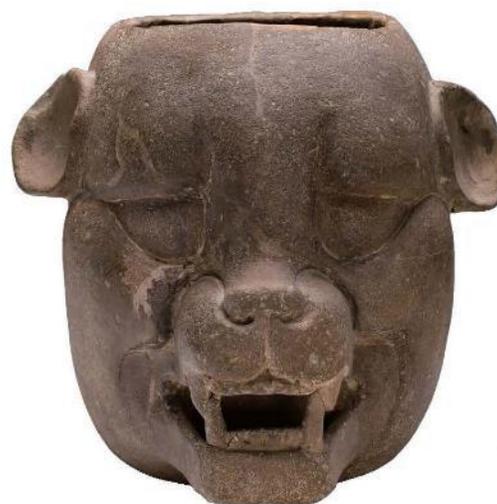


4 クモザルの容器

強い戦士はしばしばフクロウやワシに
例えられた
またフクロウは夜と死を司るとされた



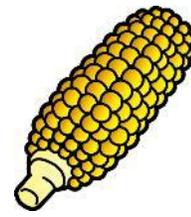
3 フクロウの土器



2 ジャガーの土器

ジャガーは中南米で最強の動物
王や戦士の権威の象徴とされた

4つのキーワード トウモロコシ



いまから約9000年前には栽培が始まったメソアメリカ(中米)の主食作物
灌漑水に乏しい環境下でトウモロコシの出来は社会を左右するほど重要
マヤ神話では「人間はトウモロコシより作られた」とされる
さまざまな神の像にもトウモロコシが表現される



6・7 メタテ、マノ



5 チコモコアトル神の火鉢
(複製)

4つのキーワード 天体と暦

雨季と乾季がはっきりした気候下で
農耕のため天体観測と正確な暦が必要だった
メソアメリカの人々は熱心に天体を観測し
それらをさまざまな形で残した



両脇の縦長のスペースには
金星をあらわす三葉の星と
ふたつ一組の目が付いた星が
繰り返してあらわされる

中央には高所から降りてくる鳥と
二人の戦士が描かれる
彼らは太陽が天空を進むのに
同行するという使命があった

4つのキーワード 球技

ゴムのボールを体で打ちあう球技はメソアメリカの諸文明で盛んにおこなわれた時には都市国家間の戦争の代替行為とされた参加者は競技のあと生贄となることもあったという

球技の存在はメソアメリカ世界における「戦争」がわれわれの考えるそれとは少し異なるニュアンスを持つということを思わせる



12 ゴムボール (民族資料)



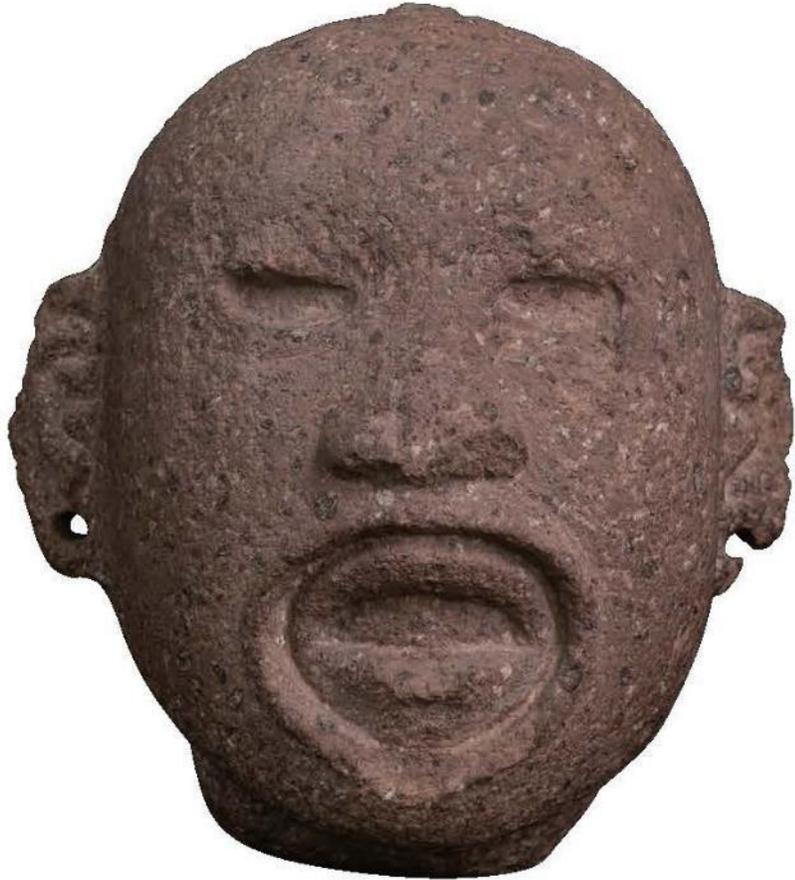
11 ユーゴ (球技用防具)



10 球技をする人の土偶

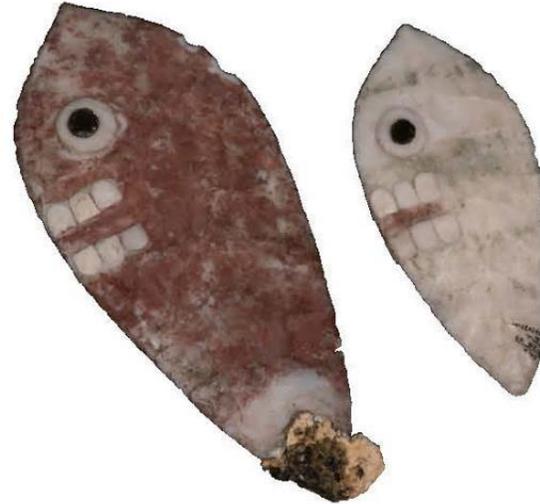
4つのキーワード 人身供儀

古代メソアメリカでは「あらゆる命はほかの命の犠牲によって成り立つ」と信じられた
王や貴族は率先して自らを傷つける人身供儀を行い
また捕虜などを生贄として神々にささげた



13 シペ・トテック神の頭像

豊穡と再生を司るシペ・トテック神は「自らの皮をはいで人々にその身を与えた」とされるシペ・トテック神の神像は人々から捧げられた「皮」をその身に被った像として表現される



14・15 テクパトル(儀礼用ナイフ)



16 歯状ナイフ



32 錐

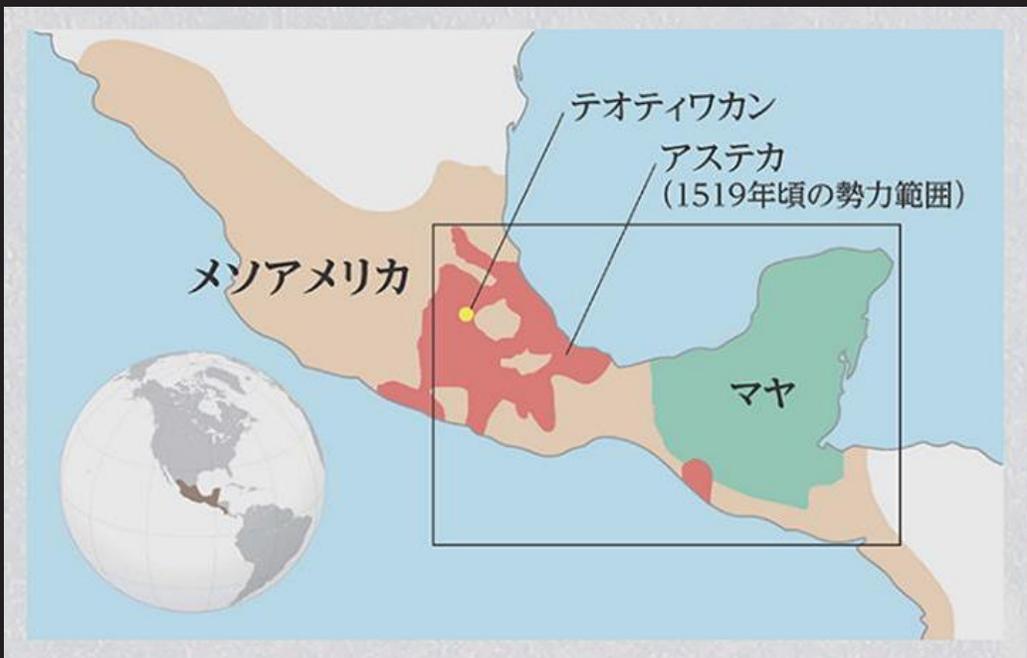
王や貴族は率先して自らの身を鋭いナイフや錐で傷つけ血をささげる「**放血儀礼**」をおこなった

第2章 テオティワカン

神々の都



23 死のディスク石彫



計画都市と3大ピラミッド

死者の大通りの「真北から15度30分の傾き」は神話において世界が始まったとされる8月12日とそこから約260日後(260日はメソアメリカの「260日暦」による)の4月29日に太陽のピラミッドの真向かいに太陽が沈むように設計されたと考えられる



太陽のピラミッド

テオティワカンには約5Km四方の規模を持つ都市
長さ約4Km 幅約50mの「死者の大通り」を中心に
太陽・月・羽毛の蛇の3つの巨大なピラミッドが配置され
それらを取り巻くように居住区域があった



3大ピラミッドに眠る

生贄犠牲者たちの副葬品

ピラミッドは、象徴的な王の死をきっかけとして、王の墓の上に建造され、幾度も拡張された。建造の際には、多くの生贄が、華やかな副葬品とともにピラミッドの中に埋葬された。



25 耳飾りをつけた女性立像



26

26 首飾り



27

27 立像

羽毛の蛇。ピラミッドの
壁面を飾った石彫



41 シパクトリ神の頭飾り石彫

40 羽毛の蛇神石彫

第3章 マヤ文明 都市国家の興亡



世界観と知識

マヤでは、天体観測と精緻な暦をもとに、様々な儀礼や戦争をおこなった。それらの歴史的な記録は、**マヤ文字**を使ったレリーフなどに残された。

中央の「十字の四隅に丸印」の文字が星を示す
右側に「尾」のようなものが表現されていて
流れ星をあらわすものかもしれない

左側は金星をあらわす
右側は数字の5と8を示す

金星の周期584日の5回分が
太陽暦365日の8回分に
当たることを示している
と考えられる



62 金星周期と太陽暦をあらわす石彫



61 星の記号の土器

マヤの文字石彫の代表作とされる「96文字の石板」

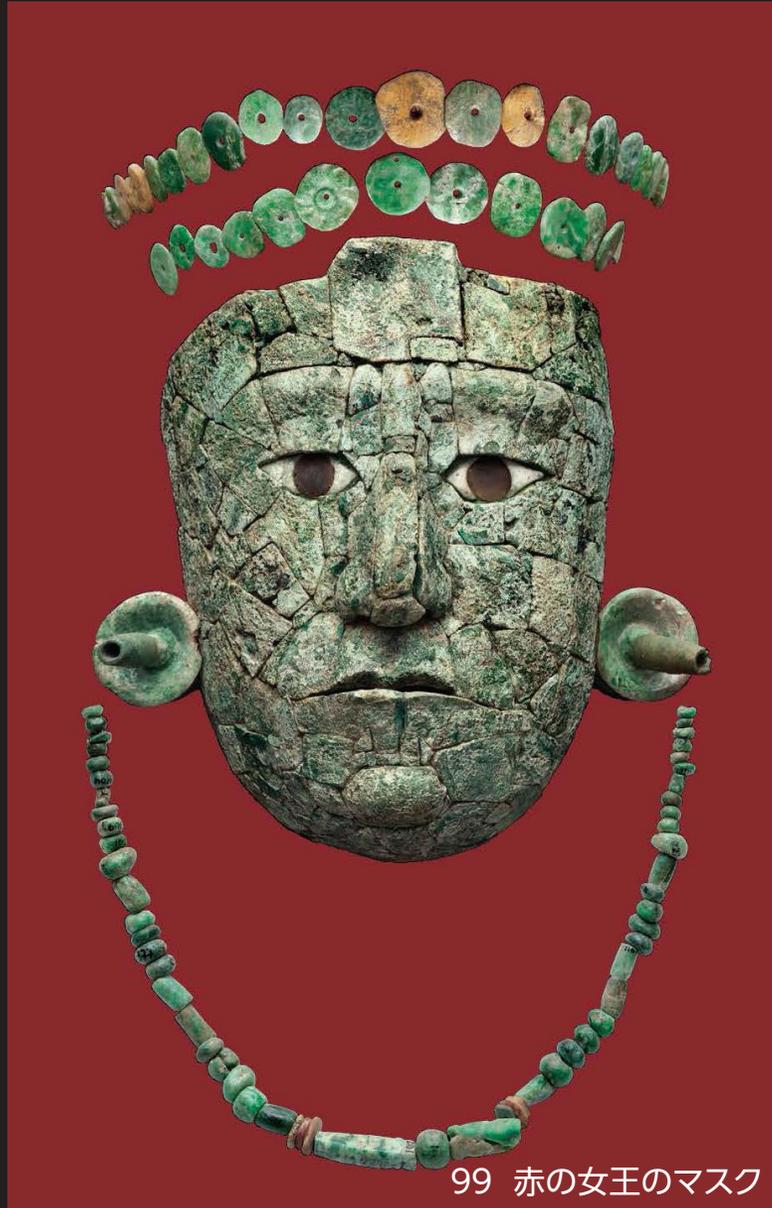
パカル王のひ孫が作らせたものでパカル王以降のパレンケ黄金期を詳しく記述する



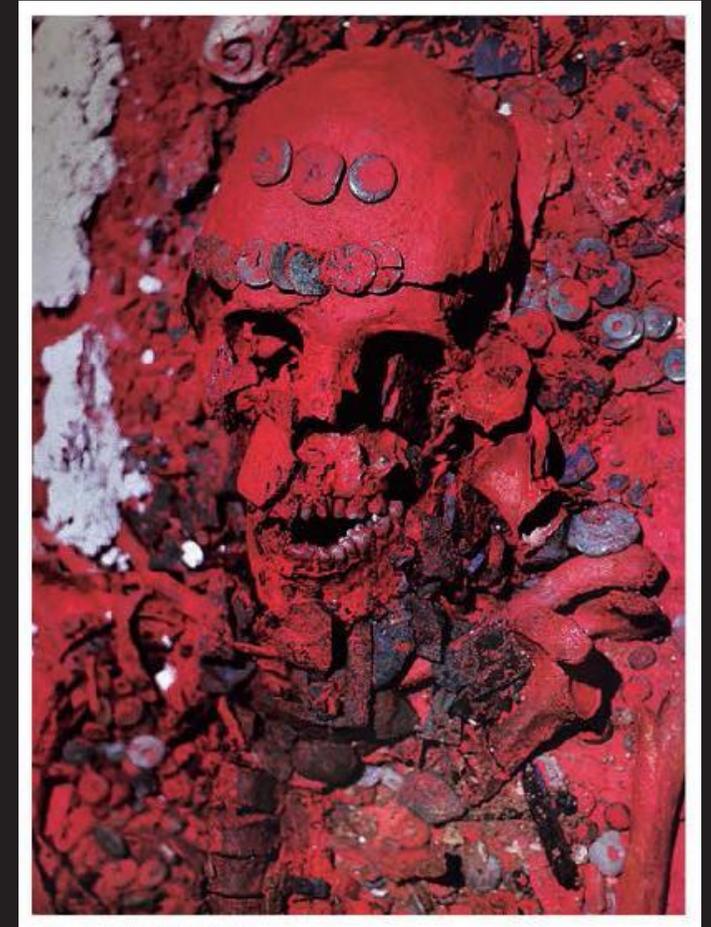
パカル王と赤の女王 パレンケの黄金時代



90 パカル王とみられる
男性頭部(複製)



99 赤の女王のマスク



出土人骨の理化学的な分析により
レイナ・ロハはパレンケ第11代王
キニチ・ハナーブ・パカルの妻である
王妃イシュ・ツァクブ・アハウである
可能性がきわめて高いとされた

パレンケ中興の祖 パカル王の王妃とされる

レイナ・ロハ

「赤の女王」の副葬品 一挙公開！





第4章 アステカ文明 テノチティトランの大神殿

テンプロ・マヨールのツォンパントリ(ドクロの基壇)
複製(テンプロ・マヨール博物館)

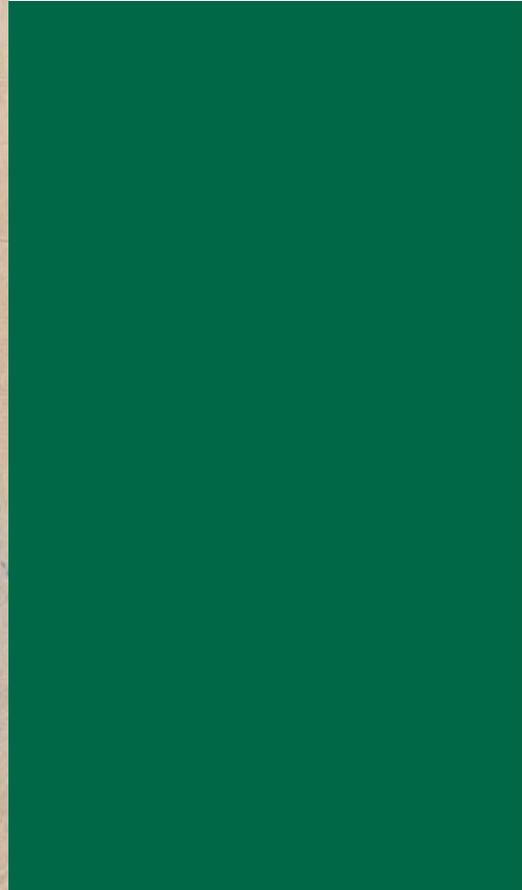


123 鷲の戦士像

アステカとメキシコ

アステカの人々は 守護神ウィツィロポチトリの別名「メシトリ」にならい自らをメシーカと呼んだ
現在の国名「メキシコ」の語源である

アステカ族の主神ウィツィロポチトリは
「岩に生えたサボテンの上に蛇をくわえた鷲がとまっているところに都を」と告げた
それがアステカ帝国の首都テノチティランであり
スペイン人の侵攻後 破壊と再建により現在のメキシコシティとなった



テンプロ・マヨール

アステカ帝国の首都テノチティランの大神殿

スペイン人による侵略後 メキシコシティとして再開発され
完全に破壊されたと考えられていた
1978年 工事の際に女神コヨルシャウキの石彫が発見され
これをきっかけとした本格的な発掘調査により
神殿の基礎部分が良好に残ることが明らかになった



コヨルシャウキ石彫(テンプロ・マヨール博物館での展示状況)

神々と儀礼

アステカの人々はメソアメリカ諸文明に共通する多神教を信仰し
さまざまな神の姿を像にあらわして信仰の対象とした
そして神々にささげる人身供儀を盛んに行い
捕虜を獲得するために「花の戦争」と呼ばれる争いを仕掛け周辺を従えた

雨と農耕の神



127 トラロク神の壺

風の神



128 エエカトル神像

リュウゼツランで作る酒
「プルケ」の神



129 プルケ神パテカトル像

テンプロマヨールの金製品

テノチティランに築かれた大神殿テンプロ・マヨールは
まだ全体の15%が調査されたのみ
これは首都テノチティランから見るとたったの0.14%にすぎない

現在も発掘調査プロジェクトは続けられており
日々新たな発見がつづく

これらの金製品は
テンプロ・マヨールから
最近発見された
埋納石室より出土した



137

137 耳飾り



138

138 鈴形ペンダント



136 巻貝形ペンダント



139 人の心臓形ペンダント



140

140 テスカトリポカ神とウィツィロポチトリ神の笏形飾り



141

141 トラルテクトリ神形飾り

ここを見て！

特別展「古代メキシコ —マヤ・アステカ・テオティワカン」

- **異文化との遭遇と異文化への理解**

日本ではあまりなじみのないメキシコ古代文明 マヤ・アステカ・テオティワカン
その造形と美を堪能できるまたとない機会

多様な神々への信仰と、特に人身供儀への理解

- **四大文明とは異なる文明**

大河の流域で肥沃な土壌をベースに都市文明を発達させた四大文明とは違う発展過程

祭祀センターを中心に都市国家が出現し、相互に交易や戦争などの交流を通じて文明を発達させたメソアメリカ文明の謎

関連イベント

- **記念講演会**

「マヤ文明—古代の遺骨が語りだす、バイオアーケオロジーとレイナ・ロハー」

講師：鈴木真太郎氏（岡山大学教授、マヤ文明専攻）

日時：令和5年11月4日（土） 14時～15時30分

- **リレー講座**

「もっと楽しもう！ 特別展『古代メキシコ—マヤ、アステカ、テオティワカン』」

講師：河野一隆（東京国立博物館学芸研究部長）、小澤佳憲（九州国立博物館主任研究員）

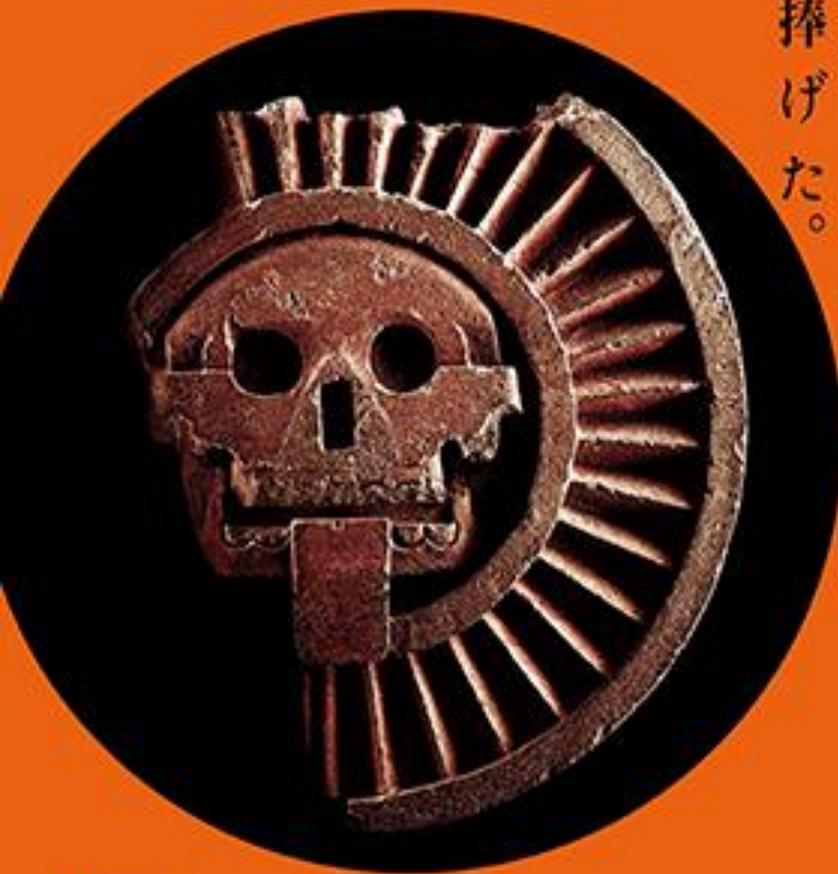
日時：令和5年10月28日（土） 14時～16時

- **死者の日フェスタ in 九州国立博物館**

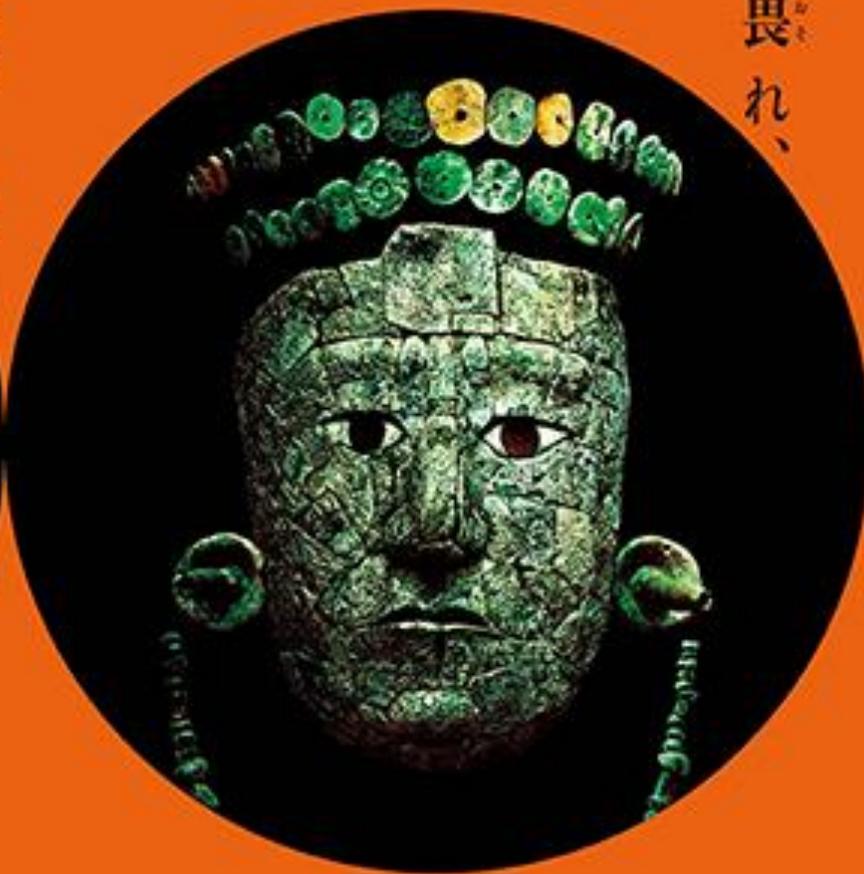
メキシコの伝統行事「死者の日」にあわせ、九州国立博物館でさまざまなイベントを開催！

（詳細はWebなどで続々発信予定）

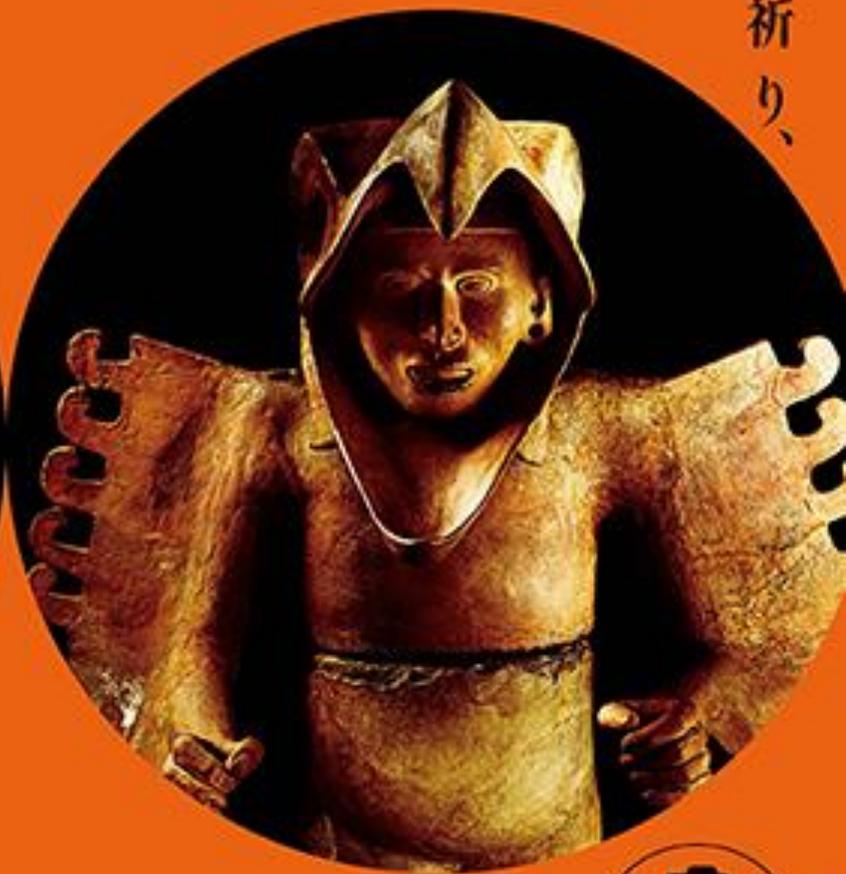
日時：令和5年11月3日（金・祝）～5日（日）



捧
げ
た。



畏
れ、



祈
り、

特別展

古代メキシコ

マヤ、アステカ、テオティワカン

2023年10月3日(火) → 12月10日(日)

Special Exhibition
Ancient Mexico
Maya, Aztec, and Teotihuacan

●九州国立博物館Twitter—@kyuhaku_koho ●九州国立博物館HP—<https://www.kyuhaku.jp>
●展覧会公式Twitter—@mexico2023_24 ●展覧会公式サイト—<https://mexico2023.exhibit.jp/>

 九州国立博物館
[太宰府天満宮横] 福岡県太宰府市石坂4-7-2



OK

会場内作品
撮影OK